

村中大祐 指揮 オーケストラ・アフィア 第4回演奏会

「自然と音楽」演奏会シリーズ
Nature and Music Vol.4

2014年6月3日(火)
19:00開演

神奈川県立音楽堂
<http://www.kanagawa-ongakudo.com/>

メンデルスゾーン：「美しいメルジーネの物語」序曲 Op.32

シューマン：ピアノ協奏曲
(ピアノ：イリーナ・メジェーエワ)

ベートーヴェン：交響曲第三番「英雄」

※曲目・出演者などはやむを得ず変更する場合がございます。

AfiA アフィア事務局

Tel : 080-3347-8118 / Fax : 045-512-8506

本日ロビーにてチケット先行発売中！

後援：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協力：株式会社アイエムエス、B-flat Music Produce

21

February
2014

Hamarikyu Asahi Hall

Nature and Music vol.3
Elftanz!

F. Mendelssohn Bartholdy
A Midsummer Night's Dream Op.61

L.v.Beethoven
Symphony No.2 in D major, Op.36

CONDUCTOR: DAISUKE MURANAKA

NARRATION: MUTSUMI HATANO

オーケストラ・アフィア第3回演奏会

「自然と音楽」演奏会シリーズ

妖精の踊り

指揮：村中大祐

日時：2014年2月21日(金) 19:00時開演

場所：浜離宮朝日ホール

主催：AfiA Office 後援：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

若き頃、私の前に突如として現れた
お前たちのその朧な姿は
再び揺らめきながらゆっくりと近づいてくる。
今度はお前たちをしっかりとつかまえてやろう。

嘗ての狂気に我が心は突き動かされている。
お前たちは、この私に向かって突き進むつもりか？
いいだろう。それならやってみるがいい。
私を取り巻くように立ち込めるこの霧からお前たちは現れ
そこから解き放たれる魔法の息吹に
我が胸は若い駿馬のように嘶くのだ！

Johann Wolfgang von Goethe ゲーテ (1749 ~ 1832)
『Faust 「ファウスト」』より

僕が23歳の春にウィーンに旅立った時、
最初に出会ったこの詩。
アウガルテン近郊の御自宅で
ある素敵な老婦人から受けたゲーテの講義は
この「ファウスト」の序章から始まった。
当時はよくわからなかった不思議な言葉の意味を
時を経てメンデルスゾーンの音の中に見た気がする。

見えないものを観る
聞こえないものを聴く

音楽のちから
それは見えないものに触れること
不思議なちからに出会うこと。

どうか今日、この場で音に出会い
そこから何かを感じてください。

メンデルスゾーン 「真夏の夜の夢」 作品 61
F. Mendelssohn Bartholdy : Ein Sommernachtstraum Op. 61

Overture 序曲
Scherzo スケルツォ
Melodram 語りと音楽
Elfenmarsch 妖精の行進
Lied mit Chor 妖精の子守唄 “蛇やムカデよ出ていけ!”
Melodram 語りと音楽
Intermezzo インテルメッツォ
Notturmo 夜曲
Melodram 語りと音楽
Hochzeitsmarsch 結婚行進曲
Melodram 語りと音楽
Finale フィナーレ

ベートーヴェン 交響曲第2番 二長調 作品 36
L.v. Beethoven : Symphonie Nr. 2 D-dur Op. 36

第一楽章 アダージョ・モルト～アレグロ・コン・ブリオ
Adagio molto ~ Allegro con brio

第二楽章 ラルゲット
Larghetto

第三楽章 スケルツォ (アレグロ) ～トリオ
Scherzo (Allegro) ~ Trio

第四楽章 アレグロ・モルト
Allegro molto

フェリックス・メンデルスゾーン・バルトロディ (1809～1847)：真夏の夜の夢

F. Mendelssohn Bartholdy : A Midsummer Night's Dream Op.61

あらすじ

ギリシャのアテネに居る二組の男女はとってとても複雑な関係。ライザンダーは美女ハーミアと相思相愛。そのハーミアを別の青年デメトリアスが恋し、その彼をヘレナが恋する複雑さ。森では妖精の王オベロンが、妖精の女王ティターニアと仲違い。オベロンは妖精パックに、ティターニアへ「浮気草」の媚薬を塗り付けることを命じます。最初に目に入った者を好きになるという媚薬。でもオベロンは、偶然見かけたデメトリアスにヘレナがつれなくされるのを同情し、この媚薬をデメトリアスにもつけるように命ずるのです。

パックはオベロンの指示通り、眠っているティターニアに媚薬を仕込みますが、そこへライザンダーとハーミア登場。慌て者のパックは媚薬を仕込む相手を、デメトリアスではなくライザンダーと勘違いしてしまうのです。

恋人たちは媚薬の効果に混乱します。最初にヘレナを見たライザンダーは、ヘレナに夢中。それまで相思相愛だったはずのハーミアを、森の中に置き去りにし、哀れなハーミアは森を彷徨します。

媚薬を塗り込んだ相手が間違っていたことを知ったオベロンとパックは、男たちが決闘に向かわないよう、彼らを森の中で道に迷わせ、疲れ切った恋人たちが再度深い眠りに落ちると、その呪いを解いてやります。驢馬を恋するティターニアもその呪いから解かれ、オベロンと共に二組の恋人たちの結婚式を祝います。

暖炉に集まった精霊たちが、恋人たちの婚礼の場を祝福して回ります。妖精たちが歌い集いながら愛の葉への祝福が終わると、ご存じ妖精パックの口上で幕を閉じます。

これまで数多くフェリックス・メンデルスゾーン・バルトロディ (1809～1847) の作品をお届けしてまいりましたが、今回はシェイクスピアの名作「真夏の夜の夢」です。

これからお聴きいただく「序曲」は、彼が17歳の時に姉のファニーや近所の親戚連と、自宅の庭でこの戯曲の素人芝居をするために作曲したのですが、その当時ドイツ語で1796年ごろ刊行されて一世を風靡したシェイクスピア翻訳版は、なんとメンデルスゾーンの親族シュレーゲル August Wilhelm Schlegel (1767～1845) が手掛けたものでした。

シェイクスピアを国民的作家に仕立て上げ、訳文としても世界最高という高い評価を受けるこのシュレーゲル版は、若き日のメンデルスゾーンに多彩なインスピレーションを与えます。序曲は妖精たちが月夜に山中で蠢(うごめ)く様を見事に表現し、妖精が踊って足踏みをするリズムや、光に照らされて輝く妖精たちの姿が目に見えようです。

この序曲の正式な初演は1827年2月20日、シュテッティン(現在のポーランド)のコンサートホールで行われます。吹雪の中、80マイルも離れた会場に出掛けたメンデルスゾーンにとって、この日は「真夏

の初演以外に自作の2台のピアノのための協奏曲のソリストとして、舞台デビューを行う記念すべき日でもあり、さらにウェーバーの作品を弾いた後は、最後に演奏されたベートーヴェンの第九で、第一ヴァイオリンを弾いたのですから、全く驚きの17歳と言えるでしょう。このファンタスティックな序曲に続いて軽快なスケルツォが始まりますが、ここからは17年後の1843年に完成された作品となります。

1841年から44年までの彼の動向を見てみますと、「肉体と精神の限界を超えるような」(Eric Werner) 活動に目を惹かれます。当時彼が作曲した作品は以下の通りです。

舞台音楽(4)。宗教音楽(10)。交響曲(1)。オルガンソナタ(6)。重唱曲(12)。歌曲(20)。

多くの合唱曲。ヴァイオリン協奏曲(1)。ピアノトリオ(1)。チェロソナタ(1)。ピアノ曲多数。また、指揮者としてはライブツィヒのゲヴァントハウスオーケストラとベルリン大聖堂のコーラス、そしてベルリンの王立教会の定期演奏会の代表。芸術監督として自身の指揮活動以外も監修しています。またドイツと英国で、それぞれ2つの音楽祭を指揮、その上にロンドンの演奏会にも指揮者として登場していました。ベルリンで実現不能となったドイツ最高の音楽院設立の夢をライブツィヒで果たし、ピアノと作曲の教授職に就いていたほか、この時期はヘンデルのオラトリオ作品を復活させて高い評価を得ます。

当時既にライブツィヒのゲヴァントハウスを本拠に8年間活動してきたメンデルスゾーンでしたが、1843年プロイセン国王のフリードリッヒ・ヴィルヘルム4世の依頼で、シェイクスピアの「真夏の夜の夢」に付随させる舞台音楽を作曲、それが10月14日にポツダム城で上演されます。

このフリードリッヒ・ヴィルヘルム4世は1840年にプロイセン国王となりますが、「ロマン派国王」と揶揄されるほど文化に耽溺し、国政を疎かにした国王でした。グリム兄弟(文学者)やコルネリウス(画家)を手元に置くような国王ですから、ドイツ最高の作曲家メンデルスゾーンに白羽の矢が当たったのも当然です。当時の宰相フンボルトはメンデルスゾーン一家とは旧知の仲でしたから、1840年10月30日国王に次のような手紙を送っています。「現在注目されているスポンティエニヤルンゲンハーゲンといった作曲家は、二人がかりでもメンデルスゾーンに敵わないでしょう。」こうして王の御膝元、ベルリンに呼ばれたメンデルスゾーンは、ベルリンに当時最高の音楽院を作ろうとしますが、音楽院院長の役職だけで何の経済的な保障はありませんでした。またベルリンの様々な政治的軋轢に嫌悪感を覚えたため、「むしろライブツィヒの方がドイツ全土にその影響を持ちうる」と思い始めます。一方ソフォクレスの「アンティゴネ」を読んだ国王は、他にも「アターリア」や「エディプス王」といったギリシャ悲劇の舞台音楽を作曲するよう命じます。それに加えての依頼が、今回演奏いたしますシェイクスピアの「真夏の夜の夢」です。

メンデルスゾーンが当時読み込んでいた「真夏」のシュレーゲル翻訳版は全4幕の作品ですから、幕間に演奏する間奏曲を彼は3曲作曲しますが、当時演出をしたティエックはこの作品を3幕の作品として上演します。こうして初演時に演奏された間奏曲のうち1曲は、舞台が止まったまま上演され、成功した公演ではあったものの、不本意な結果だったと言えるでしょう。でも「幸福な作曲家」というイメージがまさにこの曲によって出来上がった訳で、メンデルスゾーンのイメージを決定づける作品となったことは間違いありません。

ルードヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (1770～1827) : 交響曲第2番二長調 作品36
L.v. Beethoven : Symphony No.2 in D major, Op.36

ベートーヴェンには25歳ごろから聴覚障害がありました。その症状が極度に悪化した1801年当時、彼の支えとなったのは、ひとつは16歳の教え子ジュリエッタ・グイッチャルディの存在であり、もうひとつはバレエ音楽「プロメテウスの創造物」の空前の大成功でした。ジュリエッタは爵位のある女性で、その美しさは社交界も騒然とする程。ベートーヴェンは彼女に猛烈な恋心を抱き、かの有名な「月光」ソナタを献呈します。彼女がベートーヴェンの気を引いたことは事実ですが、「あのような不細工な男と結婚するほど私は落ちぶれていない」と言って、ガレンベルク伯爵の妻となり、1803年にナポリに移住します。その一生を通じて彼女がベートーヴェンの心を離れることはなく、この失恋の痛手から聴覚障害は更に悪化します。

同じく1801年に作曲されたバレエ音楽「プロメテウスの創造物」は、初演されたこの年だけで16回も公演が行われる程の大成功を収めます。これを受けてベートーヴェンは1802年初冬に向けて、「アカデミア」と称する大がかりなコンサートの許可を王室に向け申請するのですが、これが却下されて大変大きな精神的ダメージを受けることになるのです。

こうしてベートーヴェンは1802年の5月、耳の具合が極度に悪化したため、ウィーンからハイリゲンシュタットへと静養に出かけます。当時の生徒フェルディナンド・リースが次のように回想しています。「散歩途中、気持ち良さそうに笛を吹く羊飼いが目に入ったので、ベートーヴェンの注意を惹こうとしましたが、半時間経ってもその羊飼いの笛の音が聞こえないようなのです。」こうして1802年10月、様々な苦悩の中で弟たちに宛てて書かれた、かの有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」が誕生します。「本当は誰よりも人付き合いが好きで、温かい交流をいつも望んでいた私だが、世間は自分をそうは見えてくれなかった。誰よりも耳が良いはずの自分が、誰でも聞こえる羊飼いの歌が聞こえないとなれば、生きて居る価値などない。いっそのこと死んでしまおうと何度も思ったが、芸術への貢献と才能への責任がそれを思いとどまらせてくれた。」交響曲第2番二長調が書かれた背景には、こういった様々な要素がありますが、作品自体がその悲壮感を感じさせるところは、微塵もありません。だからこそ人はベートーヴェンを尊敬し、その音楽を愛したのではないのでしょうか。

極めて自信に満ちた第一楽章の導入から、アレグロ・コンプリオに移ると、音楽の化身が踊り狂うような場面が想起されます。ウィーン近郊の別荘地ハイリゲンシュタットを歩きながら、自然に囲まれ、その牧歌的風景のなかで思いを巡らすベートーヴェンの姿は、続く第二楽章ラルゲットの全編に亘って見えてくる情景と言えるでしょう。音の中にウィーン郊外の自然を感じることでできる名場面と言えるでしょう。第三楽章スケルツォは文字通り「冗談」混じりの快活な農夫たちと挨拶するベートーヴェンの姿。そしてフィナーレのアレグロ・モルト。自然を散策して癒しを得た一人の作曲家が、未来に向けた自信とエネルギーに満ち溢れて歩いていく姿を彷彿とさせます。

この作品に心の病の陰などどこを探しても見つからないばかりか、燦然と光り輝く栄光の音楽というイメージです。ゆっくりとお楽しみください。

指揮者
村中大祐
Daisuke MURANAKA

東京外国語大学ドイツ語学科を卒業後、ウィーン国立音楽大学で指揮を学び、トーティ・ダル・モンテ国際オペラコンクール指揮部門「ポッテガ」で第1回マリオ・グゼッラ国際指揮者コンクールで、いずれも第1位を獲得。フルトヴェングラーの高弟Peter Maag（ペーター・マーク）のアシスタントとして研鑽を積んだ後、ウィーンを拠点に、これまでヨーロッパ内外の数多くの歌劇場やオーケストラを指揮してきた。

1995年、急病の師ペーター・マークに代わって、公演初日2時間前に急遽抜擢され、モーツァルトの歌劇「魔笛」を指揮しイタリア・オペラ界へ鮮烈なデビューを飾る。その後ヴェネチア・フェニーチェ歌劇場、パレルモ・テアトロ・マッシモ、新国立劇場（日本）、スイス・ザンクトガレン・オペラ・フェスティバルや英国グランドボーンオペラ（アジア人初）などに登場している。

1999年からはNHK交響楽団をはじめとする国内主要オーケストラに招かれ、これまでに第11回出光音楽賞（2001年）、第19回ヨコハマ遊大賞受賞（2007年）。また横浜オペラ未来プロジェクト「秘密の結婚」が三菱東京UFJ芸術文化財団音楽賞（2009年）を受賞している。

2006年～2009年横浜開港150周年記念事業「横浜オペラ未来プロジェクト」を成功させ、また横浜OMPオーケストラを創設し脚光を浴びた。2011年5月に伊シチリア交響楽団を指揮し、東日本大震災の追悼コンサートをきっかけに『自然と音楽』のテーマをライフワークとし、世界各国で演奏を繰り返している。

2013年7月よりオーケストラ・アフィア（Afia）を創設し、『自然と音楽』演奏会シリーズにて一連のコンサートを開始。街の音、自然の色を取り入れるため、横浜での公開リハーサルを行い、また第二回「満月に寄す」では、鎌倉 鶴岡八幡宮の神嘗祭に合わせ、同社、若宮にて奉納演奏を行った。これは『自然と音楽』シリーズを通じて実現させるべき一大プロジェクトであり、東日本大震災への奉仕活動を積極的に行っておられる鶴岡八幡宮の協力により実現した。

2013年11月には英国ロンドン・カドガンホールにてイギリス室内管弦楽団（ECO）との『自然と音楽』シリーズを開始。世界的ヴァイオラ奏者ユーリ・バシユメットと共演し、シェーンベルクの「浄められた夜」、ベンジャミン・ブリテンの「イリュミナシオン」などを好演し、ロンドンの聴衆を魅了した。これにより2014年4月に再びECOとのベートーヴェン「田園」などで共演し、また2015年に同オーケストラへの客演が決定している。メディアでは、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」、日本テレビ系列「深夜のコンサート」やNHKFM、NHKBS、NHK教育テレビ、TOKYO FM、FMヨコハマ、TVKなどに多数出演。現在、FMヨコハマ「THE BREEZE」（毎月最終週火曜朝11時～）ドルチェ・カンタービレに「音のソムリエ」として出演中。



©Akiko Hisa

オフィシャル Web サイト : <http://muranplanet.com>

語り
波多野 睦美
Mutsumi HATANO

宮崎大学卒業、英国ロンドンのトリニティ音楽大学声楽専攻科修了。シェイクスピア時代のイギリスのリュートソングでデビュー。国内外で多くのコンサート、音楽祭に出演。パロックオーケストラとの数多くの共演のほか、間宮芳生作品のアメリカでの世界初演、サイトウキネン武満徹メモリアルコンサート、水戸芸術館での高橋悠治の肖像、サントリーホールでの「作曲家の個展 2013 権代敦彦」等に出演、現代音楽の分野でも積極的に活動している。

放送ではNHKニューイヤーオペラコンサート、らららクラシック、名曲アルバム、日本の叙情歌、題名のない音楽会等出演。オペラではモンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」のオッターヴィア、パーセル「ダイドーとエネアス」のダイドーなど、深い表現力と存在感で注目される。

「パーセル歌曲集／ソリチュード」など古楽器との共演による数多くのCDのほか、高橋悠治との共演で「ゆめのよる」「猫の歌」を発表、いずれも高い評価を得ている。音楽評論誌「アルテス」にてエッセイ「うたうからだ」を執筆中。2013年4月よりBS-TBS「LIFE～世界と踊る」のナレーションを担当。



©Hideya Amemiya

歌手
松原 典子
Noriko MATSUBARA

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞を受賞。

オルフ「カルミナ・ブラーナ」、ヘンデル「メサイア」、シューベルト「ミサ曲第4番」、バッハ「コーヒーカンタータ」等のソプラノソロを務める他、オペラでは、オッフェンバック「ホフマン物語」オランピア、「天国と地獄」キューピッド、モーツァルト「フィガロの結婚」バルバリーナ、ヘンデル「アリオダンテ」ダリンダ役等で出演。

2014年3月には、東京室内歌劇場 ヤナーチェク「利口な女狐の物語」女狐ピストロウシュカ役で出演予定。第15回日仏声楽コンクール、第29回ソレイユ音楽コンクール入選。これまでに、近藤政伸、小泉恵子、横山美奈、角田和子の各氏に師事。二期会会員。東京室内歌劇場会員。



小田切 一恵 Kazue ODAGIRI Elfe I

国立音楽大学声楽科卒業。日本演奏家コンクール第3位。東京音楽コンクール、イタリア声楽コンクール入選。オペラでは「魔笛」、「ラ・ボエーム」、「リゴレット」、「フィガロの結婚」等に出演。藤原歌劇団団員。

横町 あゆみ Ayumi YOKOMACHI Elfe III

京都市立芸術大学卒業。金沢大学大学院修了。国立音楽大学音楽研究所にてパロック時代の演奏様式を学ぶ。ルネサンス、パロックから現代に至るまで幅広い作品のソリストを務める。2012年西東京ニューカマーアーティスト最優秀賞受賞。現在、新国立劇場合唱団メンバー。

田中 紗綾子 Sayako TANAKA Elfe II

桐朋学園大学音楽学部卒業。同研究科修了。二期会オペラ研修所第53期マスタークラス修了。第19回大曲新人音楽祭コンクール入選。二期会会員。東京室内歌劇場会員。

福岡 章子 Akiko FUKUMA Elfe IV

島根県出雲市出身。国立音楽大学卒業。二期会オペラ研修所第52期マスタークラス修了。2005年チェコ・プラハにて開催されたE・ブラホヴァ女史の声楽マスターコースにてディプロマを取得。プラハ市内チャペルコンサートに出演する。

コンサートマスター
三浦 章宏
Akihiro MIURA

徳永二男氏に師事。1984年筑波大学を卒業し、翌年NHK交響楽団に入団。第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位入賞（1位なし）他受賞多数。1989年アフィニス文化財団の奨学生として、ドイツ・ミュンヘンへ留学、エルネ・セバステリアン氏に師事。

1999年より東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスター。これまでに新イタリア合奏団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー室内オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、神戸市室内合奏団等と共演している。リサイタル、室内楽活動も活発で、ボアヴェール・トリオ、鎌倉芸術館ゾリステン、JTアートホール室内楽シリーズへの度々の出演や、2007年にはヴェーラ弦楽四重奏団を結成、12月に横浜みなとみらいホールで結成コンサートを行った。

2011年6月には東京オペラシティ・コンサートホールにおいて、パツハ、ペートーヴェン、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を一夜で演奏するリサイタルを開催。2012年6月にJ.S.パツハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会、2013年4月にピアニスト清水和音氏とブラームス・ソナタ全曲リサイタルを行うなど、多彩で精力的な演奏活動を展開している。国立音楽大学や洗足学園音楽大学で後進の指導にもあたっている。



オーケストラ・アフィア奏者

ヴァイオリン

芝田 愛子 Aiko SHIBATA (2nd.Vn.首席)

東京藝術大学、ウィーン国立音楽大学卒業。チュエリッヒ歌劇場管弦楽団、ウィーン放送交響楽団などで契約団員として活動。現在フリーの演奏家として活動中。

会田 莉凡 Ribon AIDA

桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。第81回日本音楽コンクール第1位、併せて増沢賞、レウカディア賞、黒柳賞、鷺見賞。宮崎国際音楽祭、サイトウ・キネン・オーケストラなどに参加。徳永二男氏に師事。

志摩 かなえ Kanae SHIMA

東京藝術大学音楽学部卒業。2001年より横浜パロック室内合奏団員。現在プロオーケストラやミュージカル、J-POPのライブなどでも活動中。

瀬堀 玲実 Remi SEBORI

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て研究科修了。サイトウ・キネン室内楽勉強会、オペラプロジェクト参加。演奏家として活躍中。東工大管弦楽団の指導にあたる。

大藤 康祐 Kousuke DAITO

横浜生まれ。昭和音楽大学卒業、専攻科修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院でイーゴリ・オイストラフに学ぶ。清水高師、川上久雄の諸氏に師事。

能登谷 安紀子 Akiko NOTOYA

東京藝術大学音楽学部ヴァイオリン専攻卒業。同大学院修了。ソロ、室内楽、オーケストラ演奏の他、弦楽アンサンブルや合唱指導、作曲活動等、幅広く活動。

ヴァイオリン

波多野 幹子 Mikiko HATANO

東京音楽大学卒業。卒業演奏会に出演。第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。第1回名古屋国際音楽コンクール入選。第7回日本アンサンブルコンクール室内楽の部優秀演奏者賞、及び全音楽譜出版社賞を受賞。

濱田 彰子 Shoko HAMADA

洗足学園音楽大学、同大学院修士課程器楽専攻を首席で卒業。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団員、静岡県立沼津西高等学校芸術科非常勤講師。

山本 理紗 Risa YAMAMOTO

東京音楽大学、同大学院科目等履修卒業。第八回日本アンサンブルコンクール室内楽部門にて最高位を受賞。これまでに原田幸一郎、寺岡有希子、故田中千香士、長尾珠代、大谷康子、海野義男各氏に師事。

服部 亜希子 Akiko HATTORI

国立音楽大学ヴァイオリン専攻を首席で卒業。武岡賞受賞。卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。京都国際音楽学生フェスティバルに参加。万里の長城杯音楽コンクール第2位。向田浩子、石橋洋子、三浦章宏の各氏に師事。

早川 元菜 Haruna HAYAKAWA

国立音楽大学附属音楽高等学校を経て、国立音楽大学を卒業。同大学卒業演奏会、読売新聞社主催・新人演奏会に出演。第2回ドイツ音楽コンクールにて最高位。また、国内コンクールにて入賞。欧州にて選抜によるオーケストラアカデミーおよびツアーに参加。北垣紀子、大関博明、徳永二男、漆原啓子の各氏に師事。現在、室内楽、オーケストラを中心に演奏活動を行う傍ら、後進の指導も行っている。

ヴィオラ

七澤 達哉 Tatsuya NANASAWA (首席)

東京芸術大学音楽学部卒業。第12回大阪国際音楽コンクールアンサンブル部門第1位。神戸市長賞受賞。カルテット等のヴィオラ奏者として、室内楽のコンサートで活躍中。小澤国際室内楽アカデミー・奥志賀、SKF等に参加。これまでにヴィオラを川本嘉子氏、川崎和憲氏、市坪俊彦氏に師事。

高橋 奨 Susumu TAKAHASHI

東京音楽大学卒業。洗足学園音楽大学大学院修了。ヴィオラを兎束俊之、百武由紀、岡田伸夫、井野遼大輔の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団ヴィオラ奏者。

鈴木 勇人 Hayato SUZUKI

洗足学園音楽大学をヴァイオリンで首席卒業。その後、ヴィオラに転科。ヴァイオリンを西田博、三浦彰宏各氏、ヴィオラを岡田信夫氏に師事現在にいたる。

森山 千春 Chiharu MORIYAMA

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業。桐朋オーケストラ・アカデミー修了。現在フリーのヴィオラ奏者として演奏活動を行う。アンサンブル・ロカ、東京シンフォニア、各メンバー。

チェロ

上森 祥平 Shohei UWAMORI (首席)

日本音楽コンクール第1位入賞。ベルリン芸術大学卒業。ドイツ国家演奏家資格を取得。2008年より毎年パッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏会を開催。京都市芸術文化特別奨励者、及び京都府文化賞奨励賞受賞。東京芸術大学非常勤講師。

飯島 哲蔵 Tetsuzo IJIMA

4歳よりチェロを始める。これまでにチェロを中島克久、前田善彦、河野文昭、上森祥平、山崎伸子の各氏に師事。現在、東京芸術大学3年に在学中。

西牧 佳奈子 Kanako NISHIMAKI

桐朋学園大学を経て2010年、桐朋学園大学院大学を修了。2011年、名古屋アンサンブルフェスタ in 宗次ホールにてグランプリ受賞(弦楽四重奏)。ヴァーツラフ・アダミーラ、小澤洋介、倉田澄子、岩崎洸の各氏に師事。桐朋学園大学附属子供のための音楽教室非常勤講師。

コントラバス

西山 真二 Shinji NISHIYAMA (首席)

東京芸術大学附属音楽高等学校を経て、東京芸術大学器楽科を卒業。学内にて安宅賞、アカンサス音楽賞、受賞。永島義男、西田直文、石川滋の各氏に師事。現在、NHK交響楽団首席代行奏者。東京芸術大学非常勤講師。

稲川 永示 Eiji INAGAWA

岐阜県大垣市出身。桐朋学園付属高等学校を経て同大学を卒業。西田直文、溝入敬三各氏に師事。現代音楽の為の五重奏団『輪彩』メンバー。芸術集団『パベルの塔』を窪田翔氏と共に立ち上げる。現在NHK交響楽団員。

フルート

江川 説子 Setsuko EGAWA (首席)

徳島県出身。香川県明善高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科フルート専攻卒。甲藤卓雄、峰岸壮一両氏に師事。第47回全日本学生音楽コンクールフルート部門高校の部全国大会第1位。第61回日本音楽コンクールフルート部門第3位。94年、卒業と同時に神奈川フィルハーモニー管弦楽団に入団、現在同楽団首席フルート奏者。

柴田 真梨子 Mariko SHIBATA

岡山県出身。東京芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。ドイツのコレギウム・ムジクム国際音楽セミナー「オーケストラ・室内楽コース」修了。第9回レ・スプリング音楽コンクール管楽器部門第3位入賞。第13回日本フルートコンベンションコンクール・ピッコロ部門第2位入賞。現在、東京吹奏楽団フルート奏者。フルートカルテット「プロテア」メンバー。フルート専門店「テオバルト」講師。岡山フルートの会特別会員。

オーボエ

岡 北 斗 Hokuto OKA (首席)

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了。ドイツ国立ロストック音楽・演劇大学にて国家演奏家資格を取得。現在、藝大フィルハーモニア・オーボエ奏者、東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師。

多 田 敦 美 Atsumi TADA

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学別科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。平成16年度日演連推薦新人演奏会にて札幌交響楽団と共演。宮崎、霧島、北九州、木曾など全国各地の音楽祭に出演。現在、都内を中心にフリー奏者として活動中。これまでにオーボエを寺岡徳、小畑善昭、オットー・ヴィンター、池田昭子の各氏に師事。

クラリネット

櫻 田 はるか Haruka SAKURADA (首席)

国立音楽大学卒業。桐朋オーケストラアカデミー研修課程及び研究科修了後渡仏。ヴェルサイユ地方国立音楽院及びパリ12区立音楽院修了。2011年9月帰国し、現在、在京オーケストラ及び吹奏楽団に客演出演他、室内楽、ソロで演奏活動している。足利市民会館専属 室内オーケストラ、足利カンマーオーケスター団員。

太 田 友 香 Yuka OTA

茨城県出身。昭和音楽大学を首席で卒業。卒業時に優等賞受賞。読売新人演奏会出演。第3回クラリネットアンサンブルコンクールデュオ部門第1位、第78回日本音楽コンクールクラリネット部門第3位受賞。他多数受賞。2007年より東京佼成ウインドオーケストラクラリネット奏者。

ファゴット

武 井 俊 樹 Toshiaki TAKEI (首席)

桐朋学園大学音楽学部卒。卒業演奏会および読売新人演奏会に出演。1991年から1997年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団に在籍。外山雄三氏(音楽監督/当時)他の指揮により定期演奏会等でソリストとしても出演。1992年、第9回日本管打楽器コンクール・ファゴット部門第2位受賞。現在、読売日本交響楽団に在籍。

黒 田 紀 子 Noriko KURODA

武蔵野音楽大学卒業。ファゴットを境野達男、岡崎耕治、Sergio Azzolini、Pasquale Maronoの各氏に、室内楽を山本正治氏に師事。現在はフリーのファゴット奏者として在京、地方のオーケストラ、吹奏楽での演奏、スタジオ収録などで活動中。

ホルン

濱 地 宗 Kaname HAMAJI (首席)

宮城県仙台市出身。東京藝術大学を首席で卒業。同大学院修了。在学中、安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。第10回 JEJU International Brass Competitionにて日本人ホルン奏者初となる国際コンクール優勝者となる。その他受賞多数。小澤征爾音楽塾、PMFなどに参加。神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者を経て、現在、群馬交響楽団第一ホルン奏者。

藤 田 麻 理 絵 Marie FUJITA

武蔵野音楽大学卒業。同大学卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。室内楽をK・ベルケシュ、R・ボボの各氏に、ホルンを小川正毅、山本真、阿部雅人、丸山勉の各氏に師事。第1回ホルンコンクール2位入賞。現在、新日本フィルハーモニー交響楽団ホルン奏者。

トランペット

太 田 恭 史 Yasuhito OTA (首席)

群馬交響楽団第一トランペット奏者。東京音楽大学卒業後、シベリウス音楽院(フィンランド)に入学。クオピオ市立交響楽団(フィンランド)首席トランペット奏者、フィンランド放送交響楽団副首席トランペット奏者を歴任。2008年より現職。

池 田 英 三 子 Emiko IKEDA

東京藝術大学卒業及び同大学院修了。東京国際音楽コンクール室内楽第三部門入選。フランスのナルボンヌ国際金管五重奏コンクール特別賞受賞。現在、フリー奏者として活動する傍ら、埼玉大学教育学部及び尚美ミュージックカレッジ専門学校非常勤講師を務める。

牧 野 徹 Toru MAKINO

愛知県岡崎市出身。国立音楽大学卒業。卒業時に矢田部賞受賞。卒業と同時に群馬交響楽団入団、トランペット奏者として現在に至る。1985年には日豪音楽ユニオン第三回交換楽員としてオーストラリアのタスマニア交響楽団の首席トランペット奏者を務めた。

トロンボーン

奥 村 晃 Ko OKUMURA (首席)

東京藝術大学卒業。第14回日本管打楽器コンクール第1位。新日本フィルハーモニー交響楽団、エマーノンプラスクインテット、東京トロンボーンゾリステン各メンバー。尚美ミュージックカレッジ専門学校非常勤講師。

村 上 美 希 Miki MURAKAMI

昭和音楽大学を特別賞を受賞し卒業。現在、東京藝術大学大学院修士課程2年次に在学中。トロンボーンを小西智、岡本哲、小田桐寛之、古賀慎治の各氏に師事。読売新人演奏会、ヤマハ新人演奏会等に出演。

野 々 下 興 一 Koichi NONOSHITA

東京都交響楽団/バストロンボーン奏者。洗足学園大学卒業。「東京メトロポリタントロンボーンカルテット」「待プラス」「TrioDiesel」各メンバー。昭和音楽大学講師。

チューバ

柏田良典 Ryosuke KASHIWADA

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。第7回ヤマハ金管新人演奏会、NHK-FM デビューリサイタルなどに出演。第9回日本管打楽器コンクールチューバ部門第二位受賞。1993年～2005年、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団に在籍。退団後は客演などの演奏活動に加え、商業音楽等のスタジオワークに多数参加。また、後進の指導にも力を注いでいる。現在、名古屋芸術大学講師、日本ユーフォニアム・チューバ協会副理事長。

パーカッション

小原由紀 Yuki OHARA (首席)

東京音楽大学付属高等学校を経て、同大学卒業。東京音楽大学教職課程管弦楽・吹奏楽指導助手。これまでに、菅原淳、野口力、藤本隆文、岡田真理子、藤本佳子の各氏に師事。

市東章代 Akiyo SHITO

東京音楽大学卒業。同大学大学院科目等履修生修了。第18回打楽器新人演奏会にてグランプリ獲得。第19回日本管打楽器コンクール打楽器部門にて第2位入賞。これまでに小島光、菅原淳、岡田真理子、久保昌一、藤本隆文の各氏に師事。現在フリーランスの打楽器奏者として、オーケストラ、吹奏楽、室内楽、アンサンブルなどで活動。

稽古ピアニスト

安藤友香 Yuka ANDO

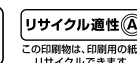
京都市立芸術大学卒業。ピアノデュオや他楽器とのアンサンブル、声楽との共演、合唱伴奏など意欲的に活動。2006年から2009年「横浜オペラ未来プロジェクト」に音楽スタッフとして参加。鎌倉女子大学非常勤講師。

Nature and Music

「自然と音楽」演奏会シリーズは、
2011年の東日本大震災後に生まれたプロジェクトである。

自然の猛威を感じながらも、自然との共生を続けていくために、
われわれ音楽家がどのようなメッセージを発信したらよいかを考え、
募金活動という形ではなく、実際に湘南国際村で行われている
「植樹」や、東北で防波林を作るプロジェクトなどに
演奏会から得られた利益を還元していくことを考えた。

音楽の成立過程のなかで、
音楽が「自然」を表現し始めたことから、
「音のなかに自然を感じ、自然と向き合う」ことを目的に、
このテーマが作られた。



FSC® 森林認証紙にノンVOC インキ（石油系溶剤 0%）など、印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場です。また、読みやすさに配慮した書体を使用しています。

Printed & Designed by Ohkawa printing Co.,Ltd